

IPランドスケープ特化型 生成AIツール競合比較レポート

エグゼクティブサマリ

本レポートは、経営層向けの競合ポートフォリオ比較、R&D注力領域の検出、出願クレーム構造の微細変化検出、要約生成、ダッシュボード/レポート自動化を「すぐの実務で回す」目的で、主要なIPランドスケープ/特許インテリジェンス製品を、一次情報（公式製品ページ、ヘルプ/ホワイトペーパー、学術、業界ガイド）を中心に比較したものです。 ¹

推奨トップ3（“単体で万能”ではなく、目的適合度の高い順）

推奨1：PatentSight（PatentSight+を含む）

経営層の比較に直結する「定量指標の透明性・再現性」と、ランドスケープ探索（クラスタリング）・自動説明（生成AI）・PowerPoint/データ出力の揃い方が強い点を最優先で評価しました。特にPatent Asset Indexは、Technology Relevance（被引用等）とMarket Coverage（市場カバレッジ）から構成される“科学的に設計された”指標として明確に定義され、学術的検証にも言及しています。 ²

推奨2：Derwent DWPI（+ClarivateのDerwent Patent Search/Derwent API群）

「DWPI相当」の要約品質（編集者による発明要約・索引）と、AI Search（言語トランスフォーマーモデル、DWPI学習）による一次探索→人手検証の運用に寄せた設計、さらにAPI/データフィードで既存ダッシュボードに組み込める点を重視しました。特許要約の“読める化”は、競合比較・R&D方針議論・社内合意形成のスループットを直接上げやすいです。 ³

推奨3：PatSnap（Analytics+Patsnap AI/Hiro+Open Platform）

更新頻度（デイリー）とデータカバレッジを明示しつつ、AI要約・AIタグ付け・アシスタント（Hiro）で特許→洞察→共有までの回転を速められる点、さらにAPI/MCPで社内自動化（エージェント化）に踏み込める点の評価しました。特に「回答を根拠ソースへリンクする」「特許DBに直接アクセスして会話中に検索・分析する」設計は、生成AIの業務実装で問題になりがちな“根拠追跡”と“自動化”に効きます。 ⁴

補足（トップ3以外で“目的特化”の有力候補）

- **Patentfield AIR**：最大1万件母集団に対する一括生成AI処理、要約/分類/対比評価（請求項案と先行文献の構成比較）を明示し、月額3万円プラン等の入口価格を提示している点が「短期PoC→現場定着」に強いです。 ⁵
- **Questel（Orbit Intelligence+Sophia）**：データ正規化プロセスやFAMPATの更新サイクル（日曜更新）を開示し、生成AI（Sophia）で検索式生成・要約・分類などを前面に出しています。 ⁶
- **Lens（Lens.org）**：オープン/準オープン寄りでAPI・バルク差分（週次）を明快に提供するため、「自社生成AI（RAG）+特許データ基盤」を組み合わせる費用対効果が高い一方、経営層向けの“完成された競合ベンチマーク指標”は別途設計が必要になりやすいです。 ⁷

主要製品の比較表

凡例：

- **定量指標** = Patent Asset Index相当の強度/価値指標（例：PAI、PatentStrength、Patent Value等）
- **DWPI相当** = 編集/専門家要約・索引など“読める要約”の提供
- **生成AI洞察** = 自然文入力→検索/分類/要約/説明文生成/ワークブック生成など

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
PatentSight （PatentSight+を含む）	LexisNexis	定量指標： Patent Asset Index （TR×MC）／ファミリー評価。 生成AI： TechDiscovery（生成AI+200+特徴の比較等）。 可視化/出力： PowerPoint/データ出力、ワークブック生成やチャート説明。 ⁸	中核はDOCDB/INPADOC（EPO）等を明示。JP/USのリーガル等も追加の旨。 ⁹	クラスタ割当は週次更新の記載。 ¹⁰	指標定義・学術検証（Ernst & Omland, 2011）言及、2008以来不変の旨。 ¹¹	非公開（要問い合わせが一般的）
Patentfield AIR	Patentfield株式会社	最大1万件母集団へ一括生成AI、要約/翻訳/抽出、社内分類ラベル付与、教師ラベル性能評価、 請求項案/構成要素と先行文献の対比評価 、ポートフォリオ分析。Excel出力。 ¹⁴	非公開（公式公開範囲では“Patentfield DBと連携”表現が中心） ¹⁵	非公開（処理能力・対象国の記載あり） ¹⁶	UIにAI結果を統合し原文と照合可能、評価（性能評価）機能を明示。 ¹⁵	月額3万円プラン言及（処理量は条件付き）。 ¹⁵

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
Derwent DWPI	Clarivate	800+編集者が要約・索引、週約8万件の新規文献を処理。 DWPIファミリー は“発明”単位でグルーピング（優先権関係を超える設計も説明）。 ²⁰	世界各国公報+DWPI編集付加価値。	週次（“毎週”規模の新規処理を明示）。 ²¹	人手編集（専門家要約）+検索改善率等のベンダー指標を提示。 ²¹	非公開（一般に要問い合わせ）
Derwent Patent Search (旧 Derwent Innovation)	Clarivate	AI Search（DWPI学習のLLM）、発明要約（70M+発明ファミリー）、FTO/無効資料探索向け、エクスポート。 ²⁴	DWPI要約+フルテキスト76法域、書誌109法域等を明記。 ²⁵	非公開（ただしDWPIは週次処理規模） ²¹	“一次探索→検証（validate）”の用途を明示。 ²⁶	非公開

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
Derwent Patent Analytics（旧 Innography）	Clarivate	定量指標： PatentStrength（30の予測変数を統合と説明）。 ³⁰	Clarivateの特許データ基盤（詳細は製品に依存）	非公開	PatentStrengthの構成変数数を明示。 ³¹	非公開
Lens（Lens.org）	The Lens	API/バルク（スナップショット+差分）。特許は週次デルタ配布。法的情報はINPADOC由来と明記。 ³³	INPADOCリーガルイベント（EPO）を明示。 ³⁴	バルク差分：特許は週次。 ³⁵	リーガルステータスはデータ源から計算され“正確でない場合がある”注意を明記。 ³⁴	商用利用：年1,000USD（個人席）を明示。 ³⁶

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
PatSnap (Analytics)	PatSnap	データ規模/法域数/更新頻度（Daily）を明示。特許価値（Patent Value）等を機能として揭示。 ⁴⁰	グローバル特許+法務データ等を枚挙（数値で記載）。 ⁴¹	Daily（最新更新日も表示）。 ⁴¹	価値評価は80+指標+過去取引データ補正の“指標ベース”を公開。 ⁴²	非公開（Standard/Premium等のプラン提示あり） ⁴¹
Patsnap AI (Hiro等)	PatSnap	PatsnapGPT、AI検索/タグ付け/要約、アシスタント（Hiro）。回答を根拠ソースへリンクし幻覚回避を謳う。 ⁴⁵	PatSnapの独自データ学習を明示（特許/NPL等の規模を列挙）。 ⁴⁵	非公開	“ソースにリンクする”“専用データで学習”を明示。 ⁴⁶	非公開

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
Questel Orbit Intelligence+ Sophia	Questel	Sophia（生成AI）で検索式生成/要約/分類/分析、コンセプト抽出とクラスタリング、プレゼン共有等を明示。FAMPATは日曜更新とKBに記載。 ⁴⁹	300+機関書誌、60フルテキスト等のデータスコープを明示。 ⁵⁰	日曜更新（FAMPAT）。 ⁵¹	出願人名正規化の社内プロセス/手順を公開。 ⁵²	非公開
InnovationQ+	IP.com	Semantic Gist（検索）+生成AI（要約/比較/洞察）を“デュアルエンジン”として説明。C-suite向けカスタムレポートや要約を訴求。 ⁵⁶	IEEE等のNPL、主要特許庁（米/欧/日/WO等）検索を明記。 ⁵⁷	非公開	テナント内保持・監査可能等の統制を説明。 ⁵⁸	非公開
Ambercite（Amberscope / Ambercite AI）	Ambercite	ネットワーク解析+深層学習で1.75億件の引用を処理、類似特許ランキング、APIは一部提供と記載。 ⁶⁰	引用データ中心（Google Patents等との比較文脈で説明） ⁶¹	非公開	“既知/未知引用（予測）”など独自手法を説明。 ⁶¹	サブスク年額は規模/ユーザー数等で見積（非公開）。無料トライアルあり。 ⁶²

製品名	提供会社	主要機能（例示）	データソース（例）	更新頻度	精度/検証方法（公表範囲）	導入コスト（概算/モデル）
その他（例：無料/汎用）	—	Google Patents等の無料検索、汎用LLM要約、学術API等を組合せ。PLRガイドでは引用ネットワーク/クラスタ/空間マップ等の手法が推奨される。 ⁶⁵	公開データ/契約データ混在	—	検証は自社責任	低～中（データ/工数次第）

ツール別詳細分析と出力例

PatentSight（PatentSight+を含む）

経営層向けの“ポートフォリオ比較”で刺さりやすい理由は、**Patent Asset Index (PAI)** とその下位概念 (**Competitive Impact=Technology Relevance×Market Coverage**) を、定義・計算粒度（ファミリー）・相対値の解釈まで含めて明示している点です。Technology Relevanceは前方引用（forward citations）等を補正して算出し、Market Coverageは市場規模（米国を最大市場としてベンチマーク）で測る、という形で「社内説明に耐える言語」になっています。¹¹

生成AI面では、TechDiscoveryが「少量キーワード/説明から、生成AI+MLで集合を素早く作り、フィードバックで改善する」モジュールとして説明されています。探索起点（未知領域の特許集合づくり）に強く、R&D注力領域の検出（クラスタ分析の前処理）に向きます。⁶⁷

出力例（実在機能としての例）

- 競合比較（PAI等）を含む可視化ワークブック、チャートの説明文生成、PowerPoint出力。⁶⁸
- Technology Clusters：類似ファミリーを階層クラスタに自動グルーピングし、週次で割当更新。¹⁰
- エクスポート：XLSX/CSV/TSV、画像/動画、PDFのファミリー評価シート等。⁶⁹

スクリーンショット入手可否（一次情報）

公式の指標解説ページに図が多数掲載されています。¹¹ また、ヘルプ（エクスポート手順）にUI画像が掲載されています。⁶⁹

Patentfield AIR

Patentfield AIRは、生成AIをUIに組み込んだ「査読・分析オプション」として、**最大1万件の検索母集団に対し、要約・分類・評価を一括出力**する運用像が明確です。特に競合分析で効くのは、単なる要約ではなく「社内分類ラベル付与」「教師ラベル性能評価」「新規アイデア/請求項と先行文献の対比評価」「請求項案の各構成要素がどの段落にあるか判定」までを“機能名として列挙”している点です。ここが、要求事項の「クレーム構造の微細変化検出」に最も近い“部品”になります。¹⁵

出力例（一次情報に記載された例）

- 要約例（コンテキスト理解で平易化）と、原文との対比イメージ。 15
- Excelダウンロード（公報情報＋生成AI結果）。 15
- “査読アシスタント”：通常検索画面にAI結果を反映し、原文と併せて確認。 15

価格・導入性

月額3万円プランに言及があり、処理可能件数の目安を条件付きで示しています（モデル条件付きのため、PoC時は自社プロンプト/対象件数で再見積が必須）。 15

自動化

公式KBで、グループウェア/チャット連携、Excelへの分類結果書き込み、検索式作成補助アプリ、生成AI（ChatGPT）連携などのAPI連携シナリオを提示しています。 17

スクリーンショット入手可否（一次情報）

サポートKB自体に要約例の図や機能紹介画像が掲載されています。 16

Derwent DWPI（＋Derwent Patent Search/Derwent API）

DWPIは、「DWPI相当要約」を求める要件に対して最も一次情報が厚い領域です。800+編集者が要約・索引を行い、週あたり約8万件の新規特許公報を処理すると明記されています。 21 また、DWPIファミリーの考え方（優先権関係を越えて“発明”単位でまとめ、非条約同等なども含む）も説明されています。 21

Derwent Patent Search（旧Derwent Innovation）は、AI SearchをDWPI学習のLLMとして位置づけ、“**first-pass検索→取りこぼし検証**”という運用を明確にしています。さらに、70m+発明ファミリーの専門家要約、76法域フルテキスト等の規模も提示しています。 25

出力・運用で強い点

- 監視（Watch records）：記録の変更をメール通知し、監視対象やイベント種類などの運用手順を詳細に公開しています。微細変化の“トリガー”設計（どのイベントを監視するか）に使えます。 70
- エクスポート：Excel等へ出力してオフライン自動分析が可能と明記しています。 71
- API/データフィード：DWPI/DPCI等へプログラムティックアクセスし、XML等でダッシュボード統合する思想を明示しています。 27

スクリーンショット入手可否（一次情報）

製品ページに動画/画像、機能ブロックの図が掲載されています。 72

PatSnap（Analytics＋Patsnap AI/Hiro＋Open Platform）

PatSnapは「データ規模・法域・更新頻度」をUI上の指標として公開しており、Analytics製品ページで**Daily更新**と最新更新日が明示されています。 41

生成AI側は、PatsnapGPTを掲げ、Hiroが「根拠ソースへリンクして回答」「独自データで学習」を明記しています。要約・タグ付け・検索などが“AIエコシステム”として並び、業務の直列工程（検索→査読→分類→要約→共有）を短縮する意図が読み取れます。 46

クレーム構造・微細変化への近さ（部品として）

- Claim Tree：独立/従属の関係を可視化する説明がヘルプにあります。 42
- File Wrapper（審査経過）への導線も示され、公式サイトにリンクされる場合がある旨を明記しています。 42

- ただし、クレーム更新が常に自動追跡しないケースがある（米国の軽微訂正等）ことをFAQで明示しています。したがって“微細変化検出”は、**公報発行形態とデータ反映仕様を前提に設計する必要があります。** 73

定量指標（価値評価）

PatSnapは“指標ベースの特許価値評価”として、80+の客観指標（引用、ファミリー規模、地理カバレッジ、年齢、リーガル等）を用い、過去の取引データで補正する旨をヘルプで説明しています。 42

自動化（API/MCP）

Open Platformは、REST API、UIウィジェット、MCPサーバ、エージェントスキル等で「AIエージェントが特許DBへ直接アクセス」する構成を明示しています。 74

スクリーンショット入手可否（一次情報）

ヘルプセンターにClaim Tree、Citation Map、Valuation等の画面例が多数掲載されています。 75

Questel（Orbit Intelligence + Sophia）

Orbit Intelligenceは、Sophiaを「生成AIの横断ソリューション」として、検索式生成（同義語・IPC付与）から要約・分析までを支援すると説明しています。 76

運用面の一次情報として、FAMPATが**毎週日曜更新**であること、収録データに検索報告の引用（特許/非特許）を含み、引用データ源としてINPADOCを用いる旨など、データ整備に直結する情報がKBで公開されています。 51 また、出願人名の正規化（受領→翻字/翻訳→社内DB照合→親会社付与など）の手順も公開されており、名寄せ品質の説明材料になります。 52

スクリーンショット入手可否（一次情報）

Orbit Intelligence製品ページに機能ブロックや図が掲載されています。 77

Lens（Lens.org）

Lensは、商用利用の単一席ライセンス価格（年1,000USD）を明記し、アカウント画面から購読する手順まで公開しています。 36

データ連携面では、バルクデータのスナップショット+デルタ（特許は週次）を配布し、リリースエンドポイントをスケジューラで自動チェックできると説明しています。 35

リーガル情報については、INPADOC（EPOの世界リーガルイベントデータ）由来であること、ただし計算されたリーガルステータスは正確でない場合がある旨を注意書きとして明示しています。 34

競合分析に効く定量指標と解析手法

経営層向けポートフォリオ比較の“説明可能な指標”設計

Patent Asset Index（PAI）系

PAIは、Competitive Impact=Technology Relevance×Market Coverageとして定義され、Technology Relevanceは前方引用を補正して相対評価、Market Coverageは保護市場の大きさ（最大市場を基準）で評価する、という“説明可能な分解”が特徴です。 11

経営層向けの競合比較では、ここを「R&D投資効率」「重点技術の影響度」「守る市場の厚み」といった意思決定語彙に翻訳しやすいのがメリットになります。 13

ファミリーベース強度指標 (PatentStrength / Patent Value 等)

- PatentStrength：複数の予測変数 (30) を統合してスコアリングする設計が説明されています。 31
- Patent Value：80+指標+過去取引データ補正の指標ベース評価を公開しています。 42

実務上は、これらを“絶対価値”ではなく、同一テーマ内の相対比較として扱い、個別重要資産はクレーム・法域・リーガル履歴で二段階精査する運用が安全です。 78

R&D注力領域の検出

定番は「クラスタリング+時系列」です。ベンダー側の実装例として、階層クラスタに自動グルーピングしてトレンド・競合比較に用いる考え方が示されています。 79 また、コンセプト抽出とクラスタリングによるホワイトスペース分析を訴求する例もあります。 80

手法の選択肢 (実務で使われやすい順) - テキスト埋め込み (embedding) + クラスタ：要約/代表クレーム/課題解決手段などの“比較単位”を揃え、年次でクラスターの重心・増減を追う。

- 引用ネットワーク：引用関係をグラフとしてクラスタを抽出し、技術分岐 (branch) や中心特許を特定する。特許引用ネットワーク分析は学術的にも概観整理があります。 81
- 形式概念分析 (FCA) 等：技術変化を時間軸で捉える“動的ラティス”の研究があり、概念構造として変化を追える利点があります。 82

出願クレーム構造の微細変化検出

特許ランドスケープのガイドでは、「ファミリー内で明細書は同一でもクレームが異なる」「1発明1文書で扱う場合でもクレーム差分を分析してカテゴリ付けに使うべき」点が明示されています。 83
したがって実装は、“クレームの構造化→差分→時系列化→アラート”が基本形になります。

- 構造化 (クレームを木/グラフへ)：クレームを依存関係 (木) として扱う考え方は、製品UI (Claim Tree) でも説明されています。 42 また、自然言語処理でクレームから概念グラフを抽出する研究もあります。 84
- 差分 (変更点の抽出)：最近では「クレーム改訂 (revision)」を扱うデータセットも提案されており、どの種の修正が起きるかをモデル化できます。 85
- 運用トリガー (いつ検出を走らせるか)：変更監視 (watch) をイベントベースで運用する設計が公開されています。 70

以下は、引用ネットワークとクラスタの“社内説明用”の簡易図 (概念図) です。 86

```
graph LR
  A[中心特許] --> B[後方引用]
  A --> C[後方引用]
  D[競合の関連特許] --> A
  E[競合の関連特許] --> A
  subgraph Cluster1[クラスタ例: コア技術]
    A
    D
    E
  end
  subgraph Cluster2[クラスタ例: 周辺技術]
    B
  end
```

導入時の実務チェックリスト

導入を“回る仕組み”にするためのチェック項目を、データ・評価・ワークフロー・ROIの4系統で整理します。特許ランドスケープのガイドでは、目的/スコープ→検索→分析→出力の線形性や、サプライヤ比較のためのToR整備の重要性が述べられています。⁸³

データ整備

- **名寄せ（出願人/権利者）方針**：ベンダー正規化を使うのか、自社マスター（企業グループ/子会社）で補正するのかを決める。正規化プロセスが公開されている製品では、その説明を社内統制資料に転用できます。⁸⁷
- **ファミリー定義の統一**：S-Fam/INPADOCなど混在するとKPIの分母が変わるため、比較目的に合う定義へ固定する。⁸⁸
- **更新頻度と遅延の理解**：デイリー/週次/スナップショット（PATSTATのような版）で、“いつの時点の事実か”をメタデータに残す。⁸⁹

評価指標のカスタマイズ

- **経営層KPIの合意**：「強度（影響×市場）」「重点領域シェア」「新規参入検知」など、意思決定に直結する指標へ落とす。PAIのように分解可能な指標は説明に強い。¹³
- **要約品質の尺度**：DWPI型（編集）と生成AI要約（自動）のどちらを“正”として扱うかを決め、レビューサンプルで誤読リスクを見積もる。⁹⁰
- **クレーム変化検出の評価**：差分抽出の再現率/適合率だけでなく、“どの変更がビジネスに効くか（回避容易性、FTO影響）”で優先度を付ける。クレーム改訂タスクの研究は、改訂が単なる文体でなく法的要件に紐づく点を示します。⁹¹

社内ワークフロー

- **一次探索→検証の二段構え**：AI検索はfirst-pass用途として明示される例があり、運用設計をこの前提に寄せると監査しやすい。⁹²
- **出力の標準化**：Excel/PowerPoint/CSV等へ定型出力し、会議体（経営会議、R&Dレビュー）へ自動投入する。エクスポート手順や形式が明示されている製品はテンプレ化が容易。⁹³
- **自動化インターフェース**：API/バルク差分/MCPのどれで繋ぐかを決める（例：社内AIエージェント）。⁹⁴

ROI評価ポイント

- **時間削減の測定**：査読/要約/分類の工数削減率を、PoCで“実データ×実プロンプト”で測る（ベンダーの削減率主張は条件依存）。⁹⁵
- **意思決定の質**：重要特許の取りこぼし低減、重点領域の再配分が実施されたかを、四半期レビューで検証する。⁹⁶

推奨導入シナリオとタイムライン

ここでは「短期PoC→ミドル導入→全社展開」を、**自動化（API/MCP/差分配信）と、経営レポート（PowerPoint/定型出力）**の2軸で段階化します。各社の規模・データ量・セキュリティ要件で大きく変動するため、以下は“典型例”です（固定の約束ではありません）。⁹⁷

短期PoC

狙いは「競合比較（経営向け）」「R&D注力領域の仮説抽出」「要約と分類の作業短縮」を、テンプレ出力まで含めて最短で回すことです。大量母集団の一括生成AI処理やExcel出力、あるいはAI検索のfirst-pass運用が明示された製品はPoC設計と相性が良いです。⁹⁸

ミドル導入

PoCで当たりを付けたテーマについて、クラスタリング/引用ネットワーク/時系列を“定点観測”へ移行します。差分配信（週次）やデータ更新サイクル（日曜更新、デイリー更新）が明示されるデータ供給を用いると、アラート運用の設計がしやすいです。⁹⁹

全社展開

全社展開では「経営ダッシュボード」「R&D/知財/事業の共通言語（指標+要約）」「監査可能な生成AI運用（根拠リンク、テナント統制）」が要件になります。¹⁰⁰

```
timeline
  title 導入シナリオ別タイムライン（例）
  section 短期PoC
    企画・対象テーマ定義：1-2週
    データ/名寄せ方針決定：1-2週
    検索→要約→分類→初回レポート：2-4週
    レビューとKPI合意：1-2週
  section ミドル導入
    定点観測（更新/アラート）設計：2-4週
    ダッシュボード/定型出力整備：4-8週
    ワークフロー統合（API/自動化）：4-10週
  section 全社展開
    統制（権限/監査/ログ）整備：4-8週
    部門展開（R&D/知財/事業）：8-16週
    全社KPI・運用定着：12-24週
```

参考：対象国・データ基盤の位置づけ

本レポートの想定対象（日本・米国・欧州を含むグローバル）では、一次データ（各国公報/リーガル）を束ねる基盤として、欧州特許庁¹⁰¹のDOCDB/INPADOCやPATSTATが多く参照されます。¹⁰²
また、主要庁として特許庁¹⁰³や米国特許商標庁¹⁰⁴、世界知的所有権機関¹⁰⁵等を含むデータを扱う前提で、更新遅延（スナップショット）やリーガル算出の不確実性を織り込む必要があります。¹⁰⁶

- 1 65 66 83 86 97 https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_946.pdf
https://www.wipo.int/edocs/pubdocs/en/wipo_pub_946.pdf
- 2 8 9 11 13 78 88 <https://www.lexisnexisip.com/resources/patent-asset-index/>
<https://www.lexisnexisip.com/resources/patent-asset-index/>
- 3 20 21 23 90 104 <https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/world-patents-index/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/world-patents-index/>
- 4 40 41 89 <https://www.patsnap.com/products/analytics/>
<https://www.patsnap.com/products/analytics/>
- 5 14 15 16 19 95 98 <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/patentfield-air-%E7%94%9F%E6%88%90ai%E8%AA%BF%E6%9F%BB-%E5%88%86%E6%9E%90%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
- 6 51 <https://intelligence.help.questel.com/en/support/solutions/articles/77000436699-coverage-of-the-fampat-database>
<https://intelligence.help.questel.com/en/support/solutions/articles/77000436699-coverage-of-the-fampat-database>
- 7 33 35 39 99 <https://support.lens.org/knowledge-base/bulk-data-downloads/>
<https://support.lens.org/knowledge-base/bulk-data-downloads/>
- 10 79 <https://www.lexisnexisip.com/resources/welcome-to-lexisnexis-patentsight-plus/>
<https://www.lexisnexisip.com/resources/welcome-to-lexisnexis-patentsight-plus/>
- 12 69 93 <https://ps-support.lexisnexisip.com/hc/ja/articles/30725251857043-%E3%82%A8%E3%82%AF%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88%E3%81%AE%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
<https://ps-support.lexisnexisip.com/hc/ja/articles/30725251857043-%E3%82%A8%E3%82%AF%E3%82%B9%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88%E3%81%AE%E3%82%AA%E3%83%97%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3>
- 17 <https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/api%E9%80%A3%E6%90%BA>
<https://support.patentfield.com/portal/ja/kb/articles/api%E9%80%A3%E6%90%BA>
- 18 <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000050.000025380.html>
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000050.000025380.html>
- 22 27 94 <https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-data-apis/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-data-apis/>
- 24 25 28 72 <https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-search/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-search/>
- 26 29 92 96 <https://clarivate.com/news/clarivate-launches-ai-powered-patent-search-solution-in-derwent/>
<https://clarivate.com/news/clarivate-launches-ai-powered-patent-search-solution-in-derwent/>
- 30 31 32 <https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-analytics/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/derwent/patent-analytics/>
- 34 <https://support.lens.org/knowledge-base/legal-info-tab/>
<https://support.lens.org/knowledge-base/legal-info-tab/>
- 36 <https://support.lens.org/knowledge-base/commercial-use-agreement/>
<https://support.lens.org/knowledge-base/commercial-use-agreement/>

- 68 100 <https://www.lexisnexisip.com/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/>
<https://www.lexisnexisip.com/solutions/ip-analytics-and-intelligence/patentsight/>
- 70 <https://clarivate.com/intellectual-property/training-support/derwent/legal-status-monitoring/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/training-support/derwent/legal-status-monitoring/>
- 71 <https://clarivate.com/intellectual-property/training-support/derwent/research-guides/new-invention-fto/>
<https://clarivate.com/intellectual-property/training-support/derwent/research-guides/new-invention-fto/>
- 76 <https://ip.com/innovation-power-suite/innovation-q-patent-search-software/>
<https://ip.com/innovation-power-suite/innovation-q-patent-search-software/>
- 80 <https://www.questel.com/ja/patent/ip-intelligence-software/orbit-intelligence/>
<https://www.questel.com/ja/patent/ip-intelligence-software/orbit-intelligence/>
- 81 <https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC7714239/>
<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC7714239/>
- 82 <https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S004016251000274X>
<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S004016251000274X>
- 84 <https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S095219761100217X>
<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S095219761100217X>
- 85 91 <https://aclanthology.org/2025.naacl-long.116.pdf>
<https://aclanthology.org/2025.naacl-long.116.pdf>
- 102 <https://www.epo.org/en/service-support/ordering/patent-information-products>
<https://www.epo.org/en/service-support/ordering/patent-information-products>
- 106 <https://link.epo.org/web/business/patstat/en-patstat-sample-queries.pdf>
<https://link.epo.org/web/business/patstat/en-patstat-sample-queries.pdf>

製品名	提供会社	主要機能 (例示)	データソース (例)	更新頻度	精度/検証方法 (公表範囲)	導入コスト (概算/モデル)	API/自動化可否	導入事例/業界 (公開情報)	長所・短所 (要点)	想定ユースケース
PatentSight (PatentSightを含む)	LexisNexis	定量指標: Patent Asset Index (TR×MC) /ファミリー評価。生成AI: TechDiscovery (生成AI+200+特徴の比較等)。可視化/出力: PowerPoint/データ出力、ワークブック生成やチャート説明。2	中核はDOCDB/INPADOC (EPO) 等を明示。JP/USのリーガル等も追加の旨。2	クラスタ割当は週次更新の記載。8	指標定義・学術検証 (Ernst & Omland, 2011) 言及、2008以来不変の旨。2	非公開 (要問い合わせが一般的)	形式出力が豊富 (XLSX/CSV/TSV/PDF/画像等)。9	年次報告等での指標利用例を複数提示。2	長所: 経営層向け指標・ベンチマークが強い/探索→可視化→共有が速い。短所: クレームの微細差分監視は設計が必要。2	競合ポートフォリオ比較、R&D注力領域 (クラスタ) 検出、経営レポート自動化
Patentfield AIR	Patentfield株式会社	最大1万件母集団へ一括生成AI、要約/翻訳/抽出、社内分類ラベル付与、教師ラベル性能評価、請求項案/構成要素と先行文献の対比評価、ポートフォリオ分析。Excel出力。5	非公開 (公式公開範囲では“Patentfield DBと連携”表現が中心) 5	非公開 (処理能力・対象国の記載あり) 5	UIにAI結果を統合し原文と照合可能、評価 (性能評価) 機能を明示。5	月額3万円プラン言及 (処理量は条件付き)。5	API連携 (社内分類自動付与、ChatGPT連携等) を公式KBで説明。10	セキュリティ認証取得を公表 (ISMS等)。11	長所: 要約・分類・対比評価が明確で“即戦力”/PoCしやすい価格提示。短所: グローバル経営指標 (投資家向けベンチ) 系は別途設計になりやすい。5	SDI/出願前調査、競合棚卸し、クレーム構成比較、PoC→現場定着
Derwent DWPI	Clarivate	800+編集者が要約・索引、週約8万件の新規文献を処理。DWPIファミリーは“発明”単位でグルーピング (優先権関係を越える設計も説明)。3	世界各国公報 + DWPI編集付加価値。	週次 (“毎週”規模の新規処理を明示)。3	人手編集 (専門家要約) + 検索改善率等のベンダー指標を提示。3	非公開 (一般に要問い合わせ)	データフィード/APIでDWPI等へアクセス可能。12	多数の特許庁が利用と明記。3	長所: 要約品質・索引の強さ。短所: 単体では“分析UI/ダッシュボード”は別製品依存。3	要約生成 (DWPI相当)、ノイズ除去、一次探索の品質底上げ
Derwent Patent Search (旧 Derwent Innovation)	Clarivate	AI Search (DWPI学習のLLM)、発明要約 (70M+発明ファミリー)、FTO/無効資料探索向け、エクスポート。13	DWPI要約 + フルテキスト76法域、書誌109法域等を明記。13	非公開 (ただしDWPIは週次処理規模) 3	“一次探索→検証 (validate)”の用途を明示。14	非公開	Derwent API/データフィードで連携可能。12	ユーザーコメントを掲載 (例: 日本企業/医療機器等)。13	長所: DWPI×AI検索で探索品質が高い設計。短所: 経営層向け“強度指数での横並び比較”は設計/モジュール選択が必要。14	新規領域ランドスケープ起点、FTO/無効資料探索、要約ベースの競合比較
Derwent Patent Analytics (旧 Innography)	Clarivate	定量指標: PatentStrength (30の予測変数を統合と説明)。15	Clarivateの特許データ基盤 (詳細は製品に依存)	非公開	PatentStrengthの構成変数数を明示。15	非公開	非公開 (一般に連携/出力は可能)	非公開	長所: ポートフォリオ意思決定 (構築/管理/商業化) を明確に対象化。短所: 生成AIの対話/自動化は別モジュール依存になりやすい。15	競合ポートフォリオの強度比較、資産最適化、評価・スコアリング
Lens (Lens.org)	The Lens	API/バルク (スナップショット + 差分)。特許は週次デルタ配布。法的情報はINPADOC由来と明記。7	INPADOCリーガルイベント (EPO) を明示。16	バルク差分: 特許は週次。7	リーガルステータスはデータ源から計算され “正確でない場合がある” 注意を明記。16	商用利用: 年1,000USD (個人席) を明示。17	APIドキュメント/トークン認証あり。18	非公開 (ただし多国特許データ提供を明示) 19	長所: 自社RAG/分析基盤の“材料”として強い (API/差分)。短所: 経営向け指標・テンプレレポートは自作が前提になりやすい。7	自社内製ランドスケープ、継続モニタリング、データレイク連携
PatSnap (Analytics)	PatSnap	データ規模/法域数/更新頻度 (Daily) を明示。特許価値 (Patent Value) 等を機能として提示。4	グローバル特許 + 法務データ等を枚挙 (数値で記載)。4	Daily (最新更新日も表示)。4	価値評価は80+指標 + 過去取引データ補正の“指標ベース”を公開。20	非公開 (Standard/Premium等のプラン提示あり) 4	エクスポート・分析レポート、API連携はOpen Platformで提供。21	企業導入コメント (飲料等) を掲載。4	長所: 更新頻度と分析機能が明示的/価値指標・引用/マップ等が充実。短所: クレーム更新は公報の出し方次第で“常に同期しない”注意が必要。22	競合比較、価値スコアでの棚卸し、トレンド/クラスタ検出、定点観測
Patsnap AI (Hiro等)	PatSnap	PatsnapGPT、AI検索/タグ付け/要約、アシスタント (Hiro)。回答を根拠ソースへリンクし幻覚回避を謳う。23	PatSnapの独自データ学習を明示 (特許/NPL等の規模を列挙)。23	非公開	“ソースにリンクする” “専用データで学習” を明示。23	非公開	MCPで会話中に特許DBへ直接アクセス可能 (自動化/エージェント化)。24	非公開	長所: 生成AIを“検索・要約・自動化”に直結。短所: 根拠リンク運用でも最終判断は人手前提。23	要約生成、競合ラベル自動付与、レポート自動生成、社内AIエージェント
Questel Orbit Intelligence + Sophia	Questel	Sophia (生成AI) で検索式生成/要約/分類/分析、コンセプト抽出とクラスターリング、プレゼン共有等を明示。FAMPATは日曜更新とKBに記載。25	300+機関書誌、60フルテキスト等のデータソースを明示。26	日曜更新 (FAMPAT)。6	出願人名正規化の社内プロセス/手順を公開。27	非公開	アラートの週次処理運用を説明。28	10万人超ユーザー等の記載。25	長所: データ正規化・更新サイクル等の運用情報が比較的明確。短所: 生成AIの出力品質は用途ごと検証が必要。27	競合/ホワイトスペース、R&D探索、SDI、定点アラート
InnovationQ+	IP.com	Semantic Gist (検索) + 生成AI (要約/比較/洞察) を“デュアルエンジン”として説明。C-suite向けカスタムレポートや要約を訴求。29	IEEE等のNPL、主要特許庁 (米/欧/日/WO等) 検索を明記。30	非公開	テナント内保持・監査可能等の統制を説明。29	非公開	非公開 (UI/レポート中心、APIは要確認)	非公開	長所: “根拠に基づく要約/比較”の思想が明確。短所: ランドスケープ定量指標 (PAI等) を使う設計は要確認。29	競合分析の意思決定支援、NPL込み探索、要約/レポート作成
Ambercite (Ambercope / Ambercite AI)	Ambercite	ネットワーク解析 + 深層学習で1.75億件の引用を処理、類似特許ランキング、APIは一部提供と記載。31	引用データ中心 (Google Patents等) との比較文脈で説明) 32	非公開	“既知/未知引用 (予測)” など独自手法を説明。32	サブスク年額は規模/ユーザー数等で見積 (非公開)。無料トライアルあり。33	API提供の可能性に言及。33	ホワイトペーパー/マップ例を公開。34	長所: 引用ネットワーク起点の“抜け漏れ補完”に強い。短所: 全文・要約・多面分析は他DBと組み合わせ前提。31	引用ネットワーク分析、類似探索、クラスター可視化の補助
その他 (例: 無料/汎用)	—	Google Patents等の無料検索、汎用LLM要約、学術API等を組合せ。PLRガイドでは引用ネットワーク/クラスター/空間マップ等の手法が推奨される。1	公開データ/契約データ混在	—	検証は自社責任	低~中 (データ/工数次第)	自社で実装可	—	長所: 低コスト・柔軟。短所: “名寄せ/品質/監査/再現性”を内製で担保する必要。1	内製RAG、軽量分析、PoC